

調 査 研 究 結 果

	種 目	発 行 者	教科書名
観 点	音楽	17・教出	中学音楽 1 音楽のおくりもの 中学音楽 2・3上 音楽のおくりもの 中学音楽 2・3下 音楽のおくりもの
取 扱 内 容	○ 歌唱については、第1学年では、斉唱から混声三部合唱までについて、曲想と形式の関わりを理解したり、曲想を味わいながら合わせて歌う活動を通して、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けることができるようになっている。第2，3学年では、斉唱から混声四部合唱までについて、歌詞の内容を味わい、曲の構成を理解したり、豊かなハーモニーで歌う活動を通して、創意工夫を生かして、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができるようになっている。 ○ 創作については、第1学年では、言葉のリズムやまとまりを理解したり、言葉のつなげ方や重ね方、全体のまとまりを工夫して、音楽をつくる活動を通して、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な技能を身に付けることができるようになっている。第2，3学年では、音符のつなげ方によるリズムの違いを理解したり、言葉の反復や重ね方を生かして、まとまりのある音楽をつくる活動を通して、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な技能を身に付けることができるようになっている。 ○ 鑑賞については、第1学年では、我が国や郷土の音楽及びアジア地域の諸民族の音楽等について、用いられる音階や曲の構成などの特徴を理解したり、日本とアジアの声による表現について自分なりに考えたりする活動を通して、音楽のよさや美しさを味わったりすることができるようになっている。第2，3学年については、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽等について、曲の特徴と曲全体の構成の関わりを理解したり、他の芸術と関係する音楽の役割や効果について考えたりする活動を通して、音楽のよさや美しさを味わったりすることができるようになっている。 ○ 「共通事項」については、第1学年においては、教科書冒頭で示された「学習の進め方」をもとに、それぞれの曲の特徴についてまとめたり、音楽を形づくる要素の働きに注目して、気が付いたことや感じ取ったことを話し合ったりする活動を通して、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるようになっている。第2，3学年においては、教科書冒頭で示された「学習の進め方」をもとに、テクスチュア（音の重なり方）の変化に注意して歌ったり、舞台芸術の表現から、それぞれの音楽の特徴をまとめ、共通点や相違点について紹介したりする活動を通して、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、曲の特徴についてまとめたり、曲の山場（クライマックス）の部分を確認し、その部分の特徴をまとめたりする活動が取り上げられている。第2，3学年では、ピアノ伴奏が変化する効果について、感じ取ったことをまとめたり、フレーズや形式を理解して、ブレスの取り方を工夫して歌ったりする活動が取り上げられている。		

内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、第1学年では、「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」において、言葉の自然なリズムや抑揚を聴き取り、反復や重ね方による全体の構成を考えながら創作できるようになっている。第2，3学年では、「曲想を感じ取り、曲の特徴を生かして合わせて歌おう」において、フレーズや速度の変化を生かし、合唱で表現するときの指揮の仕方について音楽の特徴と合わせて考えることができるようになっている。また、北海道に関わりのある内容については、「ソーラン節」や「江差追分」、「チュプカ ワ カムイラン」が取り上げられている。
使用上の配慮等	○ ユニークな活動を展開するピアニストから中学生に向けたメッセージや、人と社会とのつながりを生み出す取組を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ アイコンやマーク等で、学習の見通しや活動例を示したり、楽曲のよさや魅力についてまとめるコーナーを掲載したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 全学年を通して、ユニバーサルフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインに配慮したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、まなびリンク（二次元コード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	音楽	27・教芸	中学生の音楽1 中学生の音楽2・3上 中学生の音楽2・3下
取 扱 内 容	○歌唱については、第1学年では、斉唱から混声三部合唱までについて、歌詞と曲の構成との関係を理解したり、音色や強弱を工夫して歌う活動を通して、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けることができるようになっている。第2，3学年では、斉唱から混声四部合唱までについて、声部の関わり合いを理解したり、曲想の変化やパートの重なりを生かして歌う活動を通して、創意工夫を生かして、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができるようになっている。 ○創作については、第1学年では、和音の動きに合わせた音のつながり方を理解したり、表したい場面を選び、構成を工夫して音楽をつくる活動を通して、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な技能を身に付けることができるようになっている。第2，3学年では、リズムの重なり方による特徴を理解したり、和音の動きに合わせてまとまりのある旋律をつくる活動を通して、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な技能を身に付けることができるようになっている。 ○鑑賞については、第1学年では、我が国や郷土の音楽及びアジア地域の諸民族の音楽等について、映像の中で音楽が果たす役割を理解したり、音楽の特徴と歌詞が表す情景や心情について自分なりに考えたりする活動を通して、音楽のよさや美しさを味わったりすることができるようになっている。第2，3学年では、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽等について、声による表現の特徴を理解したり、作曲者が記した標題や解説などから作品に込められた思いについて考える活動を通して、音楽のよさや美しさを味わったりすることができるようになっている。 ○〔共通事項〕については、第1学年においては、目次の後の1年間の学びを俯瞰することができるページ「学びの地図」をもとに、各教材に設定された音楽を形づくる要素を踏まえて学習したり、自分たちの表現を工夫したりする活動を通して、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるようになっている。第2，3学年においては、目次の後に1年間の学びを俯瞰することができるページ「学びの地図」をもとに、各教材に設定された音楽を形づくる要素を踏まえて学習したり、音色や旋律に着目して、伝統音楽を聞き比べて特徴をまとめたりする活動を通して、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるようになっている。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、聴き取ったことと感じ取ったことをまとめたり、演奏を聴いて確認したことをもとに気付いたことや考えたことをまとめたりする活動などが取り上げられている。第2，3学年では、言葉のまとまりや抑揚を意識しながら、歌詞を音読したり、声の音色や速度、リズムの変化を感じ取り、表現を工夫して歌ったりする活動が取り上げられている。		

内容の構成・排列	○内容の構成・排列については、第1学年では、「リズムチャレンジ」において、リズムを選び、そのリズムを繰り返したり、リズムを変化させたりして、リズムアンサンブルを創作できるようになっており、系統的・発展的に学習できるようになっている。第2，3学年では、「伝統音楽の魅力を見つけよう」において、音楽を聴いて気付いたことをまとめ、地域に伝わる祭りや芸能に取り組む意義を考えるなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。また、北海道に関わりのある内容については、「ソーラン節」「江差追分」「アイヌ古式舞踊」が取り上げられている。
使用上の配慮等	○各界で活躍する方の中学生に向けたメッセージや、様々な角度から音楽を捉え、より幅広い価値観をもつことができる「音楽って何だろう？」を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○どのような曲なのかを簡潔に示す楽曲の紹介文を示したり、学習の手順に番号が付けられ、「問いかけ」による考えたいポイントを掲載したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○全学年を通して、ユニバーサルフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインに配慮したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、まなびリンク（二次元コード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	器楽	17・教出	中学器楽 音楽のおくりもの
取 扱 内 容	○ 器楽については、曲想と音楽の構造との関わりを理解したり、他のパートと合わせて演奏する技能を身に付けたりする活動を通して、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けたりすることができるようになっている。 ○ 共通事項については、曲の背景を理解したり、楽器の音色や響きを生かして、全体の構成を工夫したりして演奏する活動を通して、音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようになっていたり、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培ったりすることができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、活動のポイントや運指図を確認できるようにしたり、動画コンテンツで模範演奏を視聴したりして演奏する活動が取り上げられている。		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、篠笛の演奏において、一人で旋律を吹く活動のあとに、学習した曲を重ねて演奏できるようにするなど、系列的・発展的に学習できるようになっている。 また、北海道にかかわりのある内容については、世界における弾く楽器の紹介において、樺太アイヌの楽器であるトンコリを写真と紹介文を用いて、形や使用された地域が取り上げられている。		
使 用 上 の 配 慮 等	○ 多彩な合奏曲を掲載したり、中学生になじみのある旋律を示したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 楽器の構え方などの詳細な写真を掲載したり、段階的に身に付く演奏の仕方を示したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がされている。 ○ 全学年においてユニバーサルフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインに配慮したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、まなびリンク（二次元コード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。		
そ の 他			

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	器楽	27・教芸	中学生の器楽
取 扱 内 容	○ 器楽については、曲全体の構造を理解したり、パートの役割に合う音色や強弱を工夫して演奏する技能を身に付けたりする活動を通して、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けたりすることができるようになっている。 ○ 共通事項については、音色や音の重なり方の特徴を理解したり、音色を考えながら楽器の組み合わせ方を工夫したりして演奏する活動を通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「学びのコンパス」で学習の手順を確認できるようにしたり、デジタルコンテンツで学習に役立つ資料を視聴したりして演奏する活動が取り上げられている。		
内 容 の 構 成・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、ギターの演奏において、奏法の違いを学習したあとに、奏法の違いを生かして、重奏で演奏できるようにするなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。 また、北海道にかかわりのある内容については、学習のきっかけとなる特集ページとして、北海道出身のドラマーである石若 駿氏のインタビューを通して、楽器を演奏することへの興味関心を高める口絵が掲載されていたり、篠笛を使った各地に伝わる郷土の祭りや芸能として檜山郡江差町の五勝手獅子舞が取り上げられている。		
使 用 上 の 配 慮 等	○ 打楽器奏者のコラムを掲載したり、同世代の音楽活動を示したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 学習目標に迫るための具体的な学習活動を例示したり、考えたいポイントを示したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がされている。 ○ 全学年においてユニバーサルフォントを使用したり、色覚特性への配慮をしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。		
そ の 他	○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。		